

May 2013, No.2

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第35回日本創造学会研究大会 「ひと・もの・ことが創りだす思草 — 創造的支援 —」

日程: 2013年10月26日(土)・27日(日)

会場: 日本医療科学大学

※埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276

実行委員長: 澁谷貞子(日本医療科学大学教授)



創造とは、ひと・もの・ことが有機的に作用する相互作用のプロセスであり、そこには必ず創り手の思いがあります。江戸ことばの「差し伸べ思草」に現されるように、創造し差し伸べる者の地域や社会・企業・組織に対する行動、行動に込められている思いについて共に考える機会としたいと思います。初秋の埼玉・小江戸川越方面へのご参加をお待ち申し上げます。

第35回研究大会スケジュール(予定)

1日目 10月26日(土)

時間	プログラム
12:00~12:50	合同役員会
12:00~	参加者受付
13:00~13:10	開会挨拶 理事長 徐方啓
13:10~14:10	基調講演 ※参加費無料
14:30~16:30	パネルディスカッション ※参加費無料 *4人のパネリストと会場との活発なディスカッションを期待!
16:45~17:30	総会 学会賞表彰式
18:00~20:00	懇親会(大学からバスにて移動)

2日目 10月27日(日)

時間	プログラム
9:45~	受付開始
10:00~	研究発表1 (発表20分質疑・交代10分)
11:00~12:00	研究発表2
12:00~13:00	特別講演「笑いヨガ」 ※参加費無料
13:00~14:00	昼食(希望者弁当)
14:00~15:00	研究発表3
15:00~16:00	研究発表4

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。



【基調講演】

村田 早那香 氏

NPO法人「かものはし」代表理事
テーマ(仮)

「アジアの人々の自立支援と
かものはしプロジェクトの活動」

フェリス女学院大学の学生時代に東南アジアの児童買春防止を啓発する活動を開始し、2004年にNPO法人「かものはし」を設立。

孤児院支援、買春側を取り締まる警察訓練に対する経済的支援、カンボジア地域における住民の自立支援をアクティブに活動中。

パネルディスカッションテーマ

「挑戦し続ける支援者の思草と創造性」

司会進行: 田村 新吾氏 (日本創造学会任命理事)

※パネリスト: 詳細は裏面参照下さい。

- ・村田 早那香氏 NPO法人「かものはし」代表理事
- ・原 知之氏 NPO法人「川越蔵の会」会長
- ・大武 美保子氏 千葉大学大学院准教授
- ・小山 英子氏 日本医療科学大学保健医療学部看護学科教授・学科長

特別講演 講師: 高田 佳子 氏

日本笑いヨガ協会代表・株式会社アートランド代表取締役

笑いの体操と呼吸法を組み合わせ、笑いヨガを創る高田氏は、日本の笑いヨガ第一人者です。高田氏による特別講演と実演に皆様ご参加下さい。(笑いヨガ協会リーフレットより一部抜)

パネルディスカッション 2013年10月26日(土)14:30~

「挑戦し続ける支援者の思草と創造性」

●イントロダクション 司会者 **田村 新吾氏**

(日本創造学会任命理事)(株)ワンダーワークス代表取締役

●パネリスト報告

・**村田 早那香氏**: NPO法人「かものはし」代表理事

活動についての紹介、活動拠点の環境づくり、ボランティア団体形成のプロセス、支援するもの、されるものの相互関係づくりなど、カンボジア等アジア諸国における自立支援について提言する。



下呂山町は日本最古とも言われる
柚子の産地
町のHPより

・**原 知之氏**: NPO法人「川越蔵の会」会長。川越一番街「陶舗やまわ」代表取締役

埼玉県の南西部に位置する川越市は、旧市街地が衰退化を迎えた。1980年代町並み景観保存を謳いながら若い商店主が、建築家や市役所若手職員とともに官民一体となったまちづくりについて報告する。



・**大武 美保子氏**: 千葉大学大学院准教授、ほのぼのの研究所代表理事

2008年NPO法人として認知症予防回復支援に共想法を提唱する。認知症予防と回復のための新しいコミュニケーションについて紹介する。

・**小山 英子氏**: 日本医療科学大学保健医療学部看護学科:基礎看護学教授

・学科長

平成24年に開設した看護学科。実践を重視した看護教育のための新たな組織づくりと小山氏の思草について紹介する。

【大会会場】日本医療科学大学 3・4号棟

電車でのアクセス

池袋から東武東上線坂戸駅(約45分)乗り換え
東武越生線「川角駅」下車 徒歩10分



【宿泊先紹介】

※個人で各施設へお申込み下さい。

川越周辺への宿泊
「川越プリンスホテル」

TEL:049-227-1111

1泊1食シングル6,500円～
※人力車に乗り、川越の街並みが楽しめます。「時の鐘」「菓子屋横丁」など小江戸川越をぜひ散策下さい。パネリスト原氏のお店「陶舗やまわ」にもぜひお立ち寄りください。

坂戸駅南口周辺への宿
「SAKADO HOTEL」

TEL:049-284-4111

1泊1食シングル7,700円～
坂戸駅南口より徒歩3分。会場へはタクシー15分程度。

【27日の昼食ご注文のご案内】お弁当1000円 希望者は申込用紙にてご注文下さい。

※大学周辺には、飲食店はありますがセブン-イレブン・ファミリーマート等のコンビニはございます。

【懇親会のご案内】ぜひご参加頂き、創造性についての情報交換の場に。

・会場:和食レストラン「そうま」 坂戸市中富町65-5 TEL:049-288-0112

・会費:5,000円 ※大学から懇親会会場、懇親会後は坂戸駅南口までバス送迎有り。駐車場43台分

◇参加申し込み◇ 下記の方法で申し込み下さい。

参加費については、学会ホームページTOPICS欄の第35回研究大会申込用紙にてご確認下さい。申込用紙は下記URLよりダウンロードが可能です。

日本創造学会ホームページURL: <http://www.japancreativity.jp/>

申込書送付先:大会参加申込書をご記入の上、事務局にメール添付またはFAXでお送りください。

送付先: mail: jcs@soken-ri.co.jp 6月1日以降はjcs-info@japancreativity.jp

fax: 047-314-6380



■2013年度学会誌（17号）論文投稿の募集■

—当学会は通年査読です。いつでも投稿できます。早目にどうぞ！—

編集委員長 櫻井敬三

1. 2013年12月末までに採録された論文が17号学会論文誌(2014年2月発刊)に掲載されます。従って投稿論文内容にもよりますが9月末までに投稿ください。なお学会HPに記載されている論文投稿規定および論文執筆要綱に従いご投稿下さい。この書式をクリアしていない場合、受理を拒否することがあります。過去の論文誌の掲載論文例でフォームを確認するのが便利です。なお電子投稿(pdf化が前提)を歓迎します。また大多数の会員が日本人なので、投稿は原則として邦文としますが、日本語を母国語としない投稿者のために、英文も許容します。

◇論文発送先：〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町2-5-17 日本経済大学 大学院
櫻井研究室 櫻井敬三 (電子投稿時 sakurai@tk.jue.ac.jp)

2. ケーススタディ(事例研究)のような実践的論文の投稿も歓迎します。採録にあたり「実践論文」などの区分記載をするかどうかは、査読者の見解を参考にして、編集委員会で個別に決定し、投稿者に打診します。なお、事例紹介のみでの投稿ではなく、オリジナリティーがあり普遍性・論理性・妥当性を持っており客観的考察がなされている論文であることが求められます。

3. 査読プロセスの公平性を高めるために、著者が誰であるか、誰の指導を受けているかをマスキングします。従って投稿時に当事者が特定できる文献の著者名・所属・謝辞文献は消去し、参照の文言も細心の注意を払ってください。投稿時にマスキングした論文3セット、マスキングしていない論文1セットの計4セットをご送付ください。電子投稿の場合、マスキングした論文とマスキングしていない論文の各1セットが必要です。

4. 論文発送と同時に、編集委員長にe-mailを送り、下記の5点を通知してください。

①論文タイトル、②著者名、③所属、④論文の仕上がり枚数、⑤緊急連絡先電話番号
なお、送信メールアドレスはご連絡に使用しますので通常使用されるものでお願いします。

◇櫻井メールアドレス sakurai@tk.jue.ac.jp

5. 論文掲載料は、第1著者が正会員の場合2万円、学生会員の場合1万円で、掲載決定時に請求します。採録時に規定枚数(20ページ)を超過した場合の超過掲載料は、1ページにつき5千円とします。

6. 投稿論文が採録され、学会誌掲載前で採録決定証明書が必要な方は申し出てください。学会編集委員会で証明書の発行を随時行います。

2012年度論文誌推薦投票について

【論文賞推薦投票について】

掲載された論文の中から、独創的で学術的な価値があり、日本創造学会論文賞にふさわしいと思う論文2編を選び、推薦して下さい。推薦理由は、できるだけ詳しく記載して下さい。(投票権は正会員のみ有します。)

【投票方法】

このNLとともに送付された投票用紙に記入後、事務局へのFAXまたはメール添付で送信して下さい。

【推薦投票の締め切り】6月末

投票結果は学会賞委員会がとりまとめ、投票結果を参考に審議し、論文賞を決定します。

学会賞委員は、表彰担当理事が推薦し理事会承認を得て構成されます。

論文賞受賞者は2013年度研究大会中の学会賞表彰式にて表彰されます。

2013年度学会賞委員

徐方啓、櫻井敬三、弓野憲一、奥正廣、國藤進、高橋誠、柴山盛生、澁谷貞子、樋口健夫、田村新吾、西浦和樹、川路崇博、澤泉重一、佐藤道子

2011-12年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第3回日本創造学会著作賞は2011-2012年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は6月末までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレターの巻末に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。（著作は希望者には2冊まで返却しますが、エントリー時にその旨を必ず申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。）

詳しくは、下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。なお、2013年までの会費納入が確認できた方のみ、応募資格があります。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「著作賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。

[応募手続き]

I. 自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内(3千字以内)にまとめたもの3部(著作のオリジナルな点を明記する)を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。
※応募書類・著作・資料の返還は行わない。(著作返還希望者はエントリー時に申し出る)

II. 他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる(寄贈でも良い)。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。
※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか(下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する)。
 - ・他者の研究に引用されている。 ・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
 - ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。 ・海外で翻訳されている。
 - ・インターネット等で言及がある。

●●国際会議報告●●

マカオ国際文化クリエイティブ産業フォーラムに参加して

理事長 徐 方啓

2013年4月13から14日にかけて、マカオ都市大学社会経済発展研究センターとマカオ中西文化クリエイティブ産業促進会が共同主催する「2013マカオ国際文化創意産業フォーラム」がマカオ世界貿易センターで行われました。イギリスクリエイティブ経済協会会長ジョン・ホーキンス氏、北京南洋林徳顧問有限公司会長温元凱氏と私3人は基調講演者として招待され、マカオ、香港、台湾、及び中国内陸から学者、政府関係者など250人が同会議に集まりました。

ジョン・ホーキンス氏はクリエイティブ経済の父と呼ばれ、世界的に知られている人物で、日本の「Cool Japan」政策の制定にも影響を及ぼしています。温元凱氏は、中国の名高い改革派経済学者で、ノーベル賞受賞者の分析から中国の教育体制の現状について改革とイノベーションの必要性を強調しました。私は「日本におけるクリエイティブ産業」について話しました。その後、マカオ都市大学顔澤賢学長は、われわれ基調講演者3人に「Distinguished Professor of City University of Macau」という名誉証書を授与しました。

14日も一般発表で、合計31人がクリエイティブ産業の発展をめぐるいろいろな視点から論点を披露しました。

15日は、マカオ都市大学が主催する学生向けの講座でした。同じ基調講演者3人は、それぞれ創造性開発または創造的人生をめぐる話しました。地元のマスコミ「澳門日報」の記者が会場に駆けつけて、われわれ取材しました。翌日、帰国の飛行機の中でその記事を掲載する朝刊を手に入れました。

近年、クリエイティブ産業について、内外で話題になっています。日本においても、経済産業省の主導ですすめているので、わが学会に何ができるかを考える必要があるのではないかと思います。



◆◆◆創造性研究会報告◆◆◆

第26回研究会テーマ:

「クリエイティブ産業研究の論点と展望」

開催日: 2013年3月30日

講師: 姜 理恵 早稲田大学ビジネススクール招聘研究員 日本創造学会会員



早稲田大学大学院商学研究所 研究員姜理恵(かん・りえ)氏による講演。姜氏は上記のテーマで、ご自分のキャリアと研究テーマを絡ませて講演された。

特に興味をひかれたのは、雑誌編集長と発行部数の関係で、実際の調査から、変革型リーダーシップの編集長は、発行部数を大幅に伸ばすことができると述べた。さらに氏の研究結果から、「マスメディアでクリエイターとして働くのに適した創造性があるかどうかは入社時点(22歳前後)である程度わかる。できない奴はどうやってもできない」と断言した。このことには質問と意見が殺到した。

また、2012年のadobeの調査結果から、世界は日本が最もクリエイティブな国であること、しかし日本人は自らをあまりクリエイティブだとは考えていないという結果を紹介し、会場との意見交換が活発に交わされた。

姜氏は、体調不良にもかかわらず、ご自分の在日韓国人という立場も交えながら、深く広く、わかりやすく、講演して下さいました。次の機会には日本特有のファミリービジネス—老舗の経営学、世代交代—についてのことも聞きたいと思っている。

(報告: 澁谷貞子理事)

書籍紹介

※このコーナーでは、日本創造学会会員の著作を紹介致します。

弓野憲一監修、佐藤道子・伊藤純子・高橋佐和子著の「創造性 & 個性的能力を伸ばすほめ言葉ワークブック」をご紹介します。

これまで私たちは、弓野憲一先生のご指導の下、子育て中のお母さん、小中学校の教員、看護学生、臨床看護師、看護教員を対象に「ほめ言葉の創出ワークショップ」を行ってきました。

ワークショップを開催するたびに少しずつ手直しをしながら使用してきたマニュアルを今回ワークブックとしてまとめました。

コンセプトは「わかりやすく、楽しく読める、そして誰でも使えるワークブック」です。興味関心を持たれましたら「弓野教育研究所HP」をご覧ください

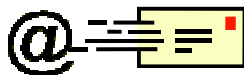
(<http://dyumiken.com/rdown/wbook/pwords.pdf>でダウンロードもできます。)
「ビギナー編」と「アドバンス編」の2部構成になっています。

用途に応じてご利用いただければと思います。



◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

(個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました)



6月1日より学会事務局のアドレスが変わります

※登録の変更をお願い致します。

現在のアドレス
jcs@socket-ri.co.jp



変更後のアドレス
jcs-info@japancreativity.jp

事務局メッセージ

メールサーバーの移転に伴い、学会事務局のメールアドレスが変更になります。旧アドレスに送信されたメッセージも半年間は新アドレスに自動転送されます。会員の皆様は新アドレスの登録をお願い致します。これまで10年間、無償でアドレスを提供し、学会活動を支援下さった(株)創造開発研究所に心より感謝申し上げます。(事務局：比嘉)

日本創造学会 ニュースレター
2013年5月発行 (No2)
日本創造学会事務局
発行人：徐方啓
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高4-7-6-816
Tel 080-3465-6152
Fax 047-314-6380
e-mail: jcs-info@japancreativity.jp
<http://www.japancreativity.jp/>